

# 月刊ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 **Nr. 358**

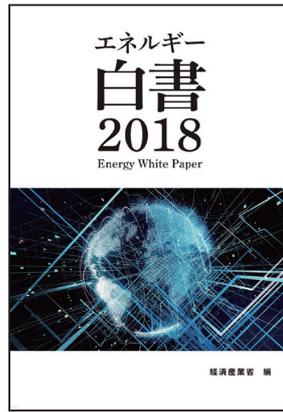
# GEKKAN-WIEN 2019年7&8月号





# 杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 91

政府は六月七日、二〇一八年度のエネルギー白書を閣議決定した。同年度にエネルギー需給に関して講じられた施策の概況を取りまとめたもの。主なトピックとして、今回は、例年の福島復興の進捗に加え、パリ協定を踏まえた主要国の温暖化・エネルギー政策、昨今の災害対応の取組について紹介している。



https://www.jaif.or.jp/190607-1

福島復興に向けては、まず、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策の取組状況を説明。使用済み燃料プールからの燃料取り出しについては、二〇一八年二月に燃料取り出し用カバリの設置が完了した三号機で、燃料取扱設備に不具合が発生したため、燃料取り出しが、当初予定の二〇一八年度中頃から延期され、安全点検などを経て二〇一九年四月に開始に至ったとの経緯が盛り込まれた。

また、福島第一原子力発電所の現状に関する地元を中心とした情報発信については、自治体・関係団体参加の評議会や動画・パンフレットの作成に加え、住民との直接対話、地元イベントへのブース出展、コンテンツ制作に伴う意見聴取・反映など、双方向コミュニケーションを意識し進めていることを強調。これらを踏まえ、復興に向けた原子力被災者支援、福島新エネ社会構想、原子力損害賠償の取組状況について説明している。

パリ協定を踏まえ日本が掲げた「二〇五〇年までに八〇%の温室効果ガス排出削減」との目標に関し、白書では、「従来の取組の

延長では実現が困難」であることを改めて述べ、イノベーションによる解決の最大限追求とともに、国内投資の促進、国際競争力の強化、国民の英知を総動員し、長期的・戦略的取組の中で大幅な排出削減を目指すとしている。二〇一八年七月に第五次エネルギー基本計画が閣議決定された。温室効果ガス排出量の約九割をエネルギー由来のCO2が占めている日本として、二〇三〇年エネルギーミックスの確実な実現に向けた取組の強化、二〇五〇年のエネルギー転換・脱炭素化への挑戦を図っていく。

さらに、白書では、主要国の温室効果ガス排出削減目標と取組・進捗状況を比較して要因を分析。我が国は、一人当たりCO2排出量でOECD三五か国中二七位に留まっており、エネルギー消費効率に強みを持つ一方、発電の約八割を火力に依存している供給側の弱みから、CO2排出削減を強化する重要性を強調した。電源の非化石化に向けて、原子力については「引き続き安全最優先の再稼働を進める」としている。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市が生んだ著名な女性画家について述べる。マリア・ラスニツクは、一九一九年、ケルンテン州のカツベル・アン・クラッペフェルトに未婚の母の子として生まれ、六歳まで祖母に育てられた。二二年に母はヤコブラスニツクと結婚し、二五年にクラウンゲンフルトに引っ越してマリアは学校に通った。六歳から十歳までスケッチの手ほどきを受け才能を見出され、母は心算した。第二次大戦中はウィーン美術アカデミーで学んだ。身体および個人の表象をセルフポートレートを通して探究するアーティストとして活動し、一九五〇年代にアーノルフ・ライナーらと前衛的なグループを作り活動した。五一年にライナーとパリを訪れ展覧会を開いた。六八年からニューヨークで活動し、八〇年にウィーンに戻りウィーン応用美術大学の教授となった。八八年に

グラン・オーストリア国家賞を受賞した最初の女性芸術家であり、九八年にオスカ・コシユカ賞、二〇〇五年にはオーストリア科学芸術賞を受賞した。

一方、上村松園(うむらしろうえん)は、一八七五年、京都四条通御幸町の葉茶屋「ちぎり屋」の次女として生まれた。八七年に京都府画学校(現京都市立芸術大学)に入学、四条派の鈴木松年に師事。九〇年に第三回内国勸業博覧会に「四季美人図」を出品、一等褒状を受賞。その後は竹内栖鳳に師事。松園は誕生二ヶ月前に父を亡くし、母仲子は女手一つで松園と姉を育て上げた。明治の女性が画家を志すなど、世間で認めるところではなかったが、仲子は常に松園を理解し励まし支え続けた。京の伝統文化に育まれた松園は、明治・大正・昭和を通して生涯「一点の卑俗なところもなく、清澄な感じのする香高い珠玉のような絵」(松園のこぼれ)を念願として女性を描き続けた。一九四一年に帝國芸術院会員、四四年に帝室技芸員に選ばれ、四八年に女性として初めて文化勲章を受賞。同じく文化勲章を受賞した息子の松篁(しょうこう)から現在も京都市に住む孫の淳之(あつし)へと日本画の才能が引き継がれた。

余談であるが、ウィーン駐在時にマリア・ラスニツクの絵を観る機会はなかったものの、京都では京都国立近代美術館にある上村松園の『舞支度』などを観た。両市が生んだ著名な女性画家にまつわる話を紹介できた

幸運に感謝しつつ、編集部に掲載影をお願いしたウィーン中央墓地名譽区にあるマリア・ラスニツクのお墓の写真を掲載させていただきます。



杉本純 元京都大学教授

元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています： <http://wattandedison.com/Sugimoto.html>



ウィーンでの説得力ある内容と明確な英語スピーチ：  
<https://www.youtube.com/watch?v=ZRaYLQeqQ8>



国連世界環境デー(6月5日) 2019のテーマソング『We Are Walking On』の音楽プロデューサー八木禎治さんが国連ウィーン支部でスピーチとライブパフォーマンスを行った。八木さんは米国ロサンゼルスを拠点に活動するレコーディングエンジニア・プロデューサーで、グラミー賞を2つ受賞している。北九州市文化大使。

